

# 当院における看護師の口腔ケアの現状

4 階東病棟

○沖本 絵里子 伊藤 文美

キーワード：口腔ケア 看護師

## I. はじめに

近年、「口腔ケア」は歯科領域だけでなく、医療、介護、看護の領域でも一般的になっており、口腔ケアを提供することは、口腔内を清潔に保ち口腔機能を維持回復することにより、「食べる楽しみ」を支援し、患者のQOLの向上に寄与できるものと考えられている。また、口腔ケアを行うことにより、誤嚥性肺炎などの合併症が減少することも立証されている。口腔ケアを実践する上で、谷口らは「口腔内の観察知識、清掃技術、看護婦の実行力が必要である」<sup>1)</sup>と述べている。このことから、看護師の口腔ケアのあり方は、患者のQOLや合併症の発症に大きく影響しているのではないかと考えられる。

本院の口腔ケアの現状は、歯科口腔外科において、口腔ケアプラン・口腔ケアアセスメントシートを作成し、実践化に向けて試行している段階であるが病院全体には普及していない。北嶋らは「口腔ケアする際には手順を明確にし、援助するものが統一した方法で継続することが重要であり、効果的といえる」<sup>2)</sup>と述べている。しかし、実際は知識や技術が看護師によりばらつきがあるのが現状であり病棟看護師がそれぞれの手法で行っており、ケア内容については統一されたものでないのが現状である。

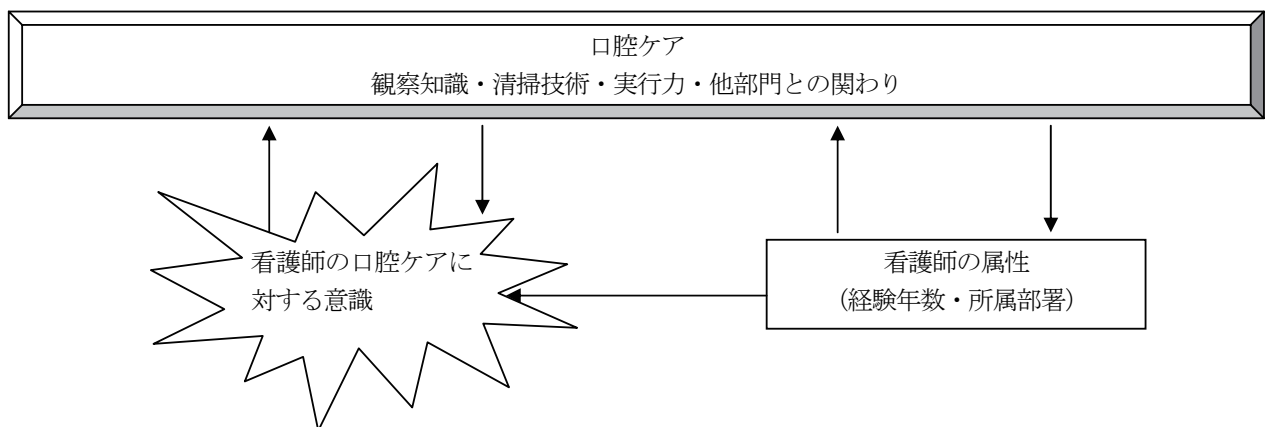
口腔ケアを行う患者の状態は様々であり、個々に応じた口腔ケアを実施するためには、患者個人の状況をアセスメントし、プランを作成し、統一したケアを継続することが必要であると考えられる。このような質の高い口腔ケアを実践するために、看護師が行っている口腔ケアの現状を明らかにし、問題点を検討し見直しを図ることが必要であると考えた。

## II. 研究の目的

当院の看護師が行っている口腔ケアの現状を明らかにすることを目的とした。

口腔ケアの現状が明らかになることで、現在行っている口腔ケアを見直すことができ、質の高い口腔ケアの実践、ひいては患者のQOLの向上や合併症の減少につながると考え、本研究に取り組んだ。

## III. 概念枠組み



先行研究より、口腔ケアは、観察知識・清掃技術・実行力・他部門との関わりで構成されており、口腔ケア・看護師の口腔ケアに対する意識・看護師の属性がそれぞれ相互関係をなしていると考えた。

#### IV. 用語の定義

- ・口腔ケア：看護師が日常的に行う口腔衛生管理に主眼を置く口腔清掃（観察、ブラッシング、含嗽、義歯の清掃、歯・舌・口蓋の清掃）
- ・質の高い口腔ケア：患者個人の状況をアセスメントし、プランを作成し、統一したケアを継続すること
- ・口腔内の観察知識：口腔ケアに関する知識及び口腔内の状態や変化を客観的に注意深く見る力
- ・口腔ケアの清掃技術：口腔内を清潔にする為の方法や手段
- ・口腔ケアの実行力：口腔ケアを実際に行える能力や計画などを実行に移す力
- ・他部門との関り：他者及び他部門と協働する力
- ・口腔ケアに対する意識：口腔ケアに対する必要性や重要性の認識

#### V. 研究方法

1. 研究デザイン：実態調査
2. 対象：一般病棟、精神科病棟ならびに救急部・集中治療部に勤務している看護師（ただし、師長、看護助手は除く）370名
3. 期間：2010年7月～2011年7月（データ収集期間：2010年8月～10月）
4. データ収集方法：無記名式アンケート用紙を作成し、各部署に配布、回収箱を設置し回収した。  
アンケートは、1. 看護師の属性の2項目、2. 観察知識の10項目、3. 清掃技術の4項目、4. 実行力の12項目、5. 他部門との関りの7項目、6. 口腔ケアに対する意識の15項目、計50項目から構成されている。
5. データ分析方法：調査結果は、属性・観察知識・清掃技術・実行力・他部門との関わり・口腔ケアに対する意識の各項目について集計を行い、分析をした。
6. 倫理的配慮：アンケートは匿名とする。得られたデータの厳密な管理、参加及び中断の権利、研究目的以外にはデータを使用しないこと、プライバシーの保護について説明し、同意を得られた者のみに研究を行う。研究結果発表時は匿名性を守る。投函をもって同意とみなす。

#### VI. 結 果

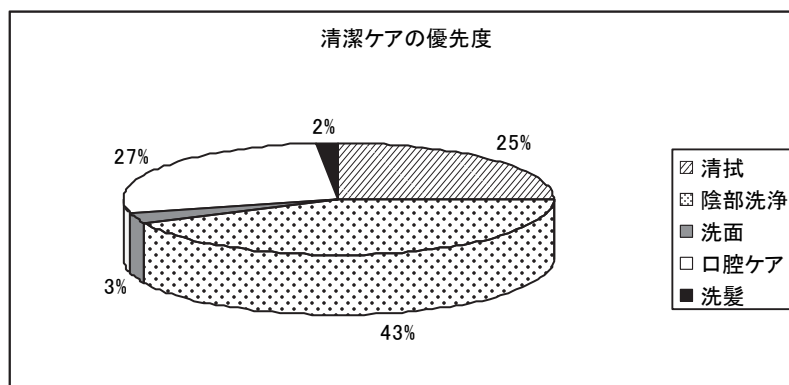
当院の一般病棟、精神科病棟ならびに救急部・集中治療部の看護師（ただし、看護師長、看護助手は除く）の計361人にアンケートを配布して、回収数は227人（回収率は62.5%）であり、有効回答数は181人（有効回答率は79.7%）となった。対象としていた周産母子センターの看護師は、口腔ケアを実施していないため、本研究では対象外とした。

##### 1. 属 性

- 1) 経験年数：平均 9.80年 標準偏差 8.45年

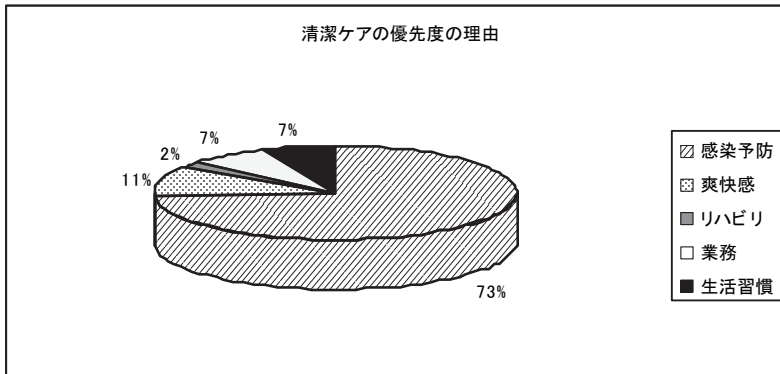
##### 2. 清潔ケアの認識について

###### 1) 清潔ケアの優先度



清潔ケアの中で、口腔ケアの優先度が最も高いと考えた看護師は27%であり、最も優先度の高いケアは、陰部洗浄であった。

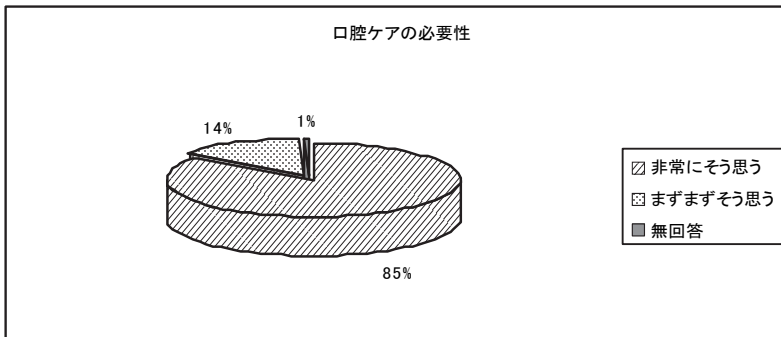
2) 清潔ケアの優先度の理由



看護師の多くは、感染予防を理由に清潔ケアを行っていた。

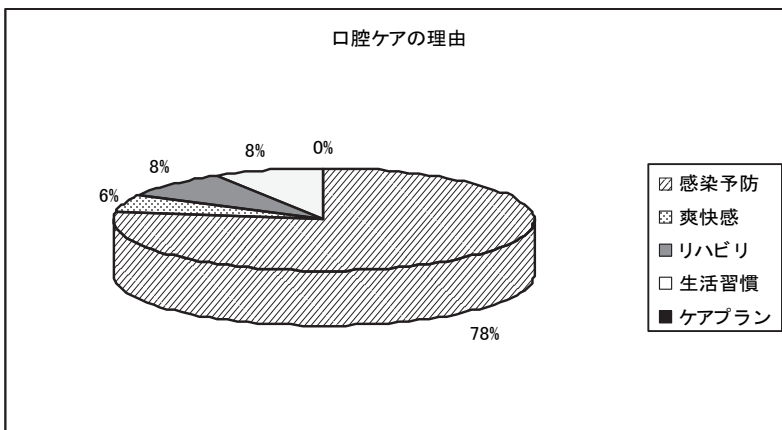
3. 口腔ケアの認識について

1) 口腔ケアの必要性



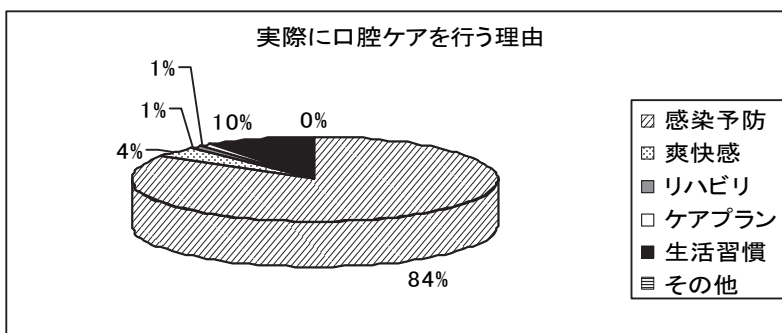
口腔ケアをほぼ全員が必要だと認識していた。

2) その必要性の理由



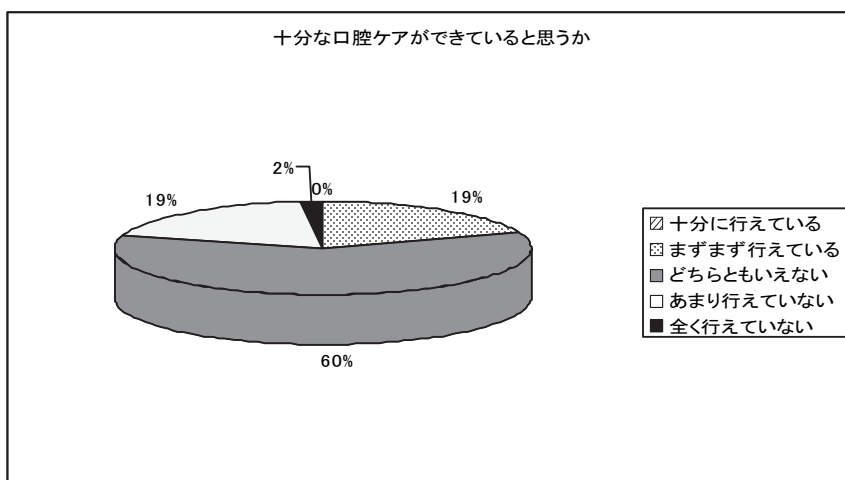
多くの看護師は、口腔ケアは感染予防のために必要であると感じていた。

3) 口腔ケアを実際に行なっている理由



口腔ケアを実際に行っている理由も、口腔ケアの必要性と同様、感染予防のためであった。

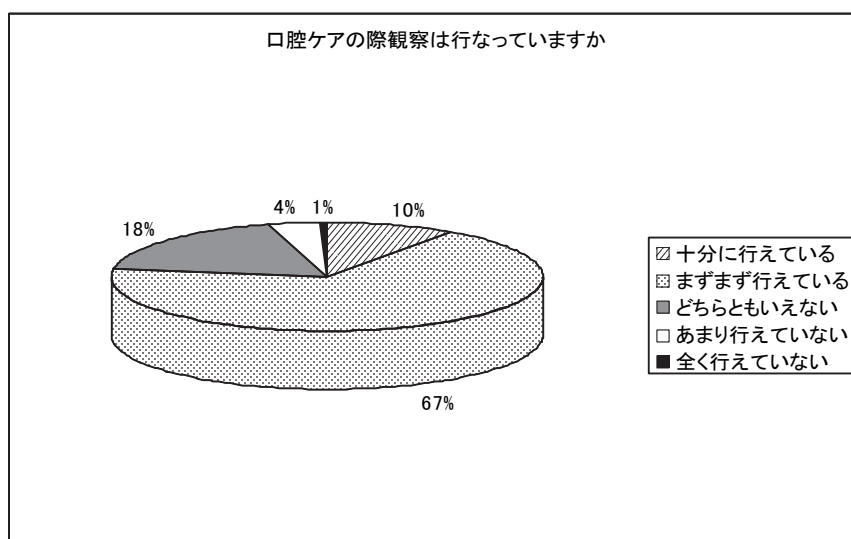
#### 4) 口腔ケアの実施の程度



口腔ケアを十分に行えていると認識している人はおらず、どちらとも言えないと認識している人が全体の6割であった。

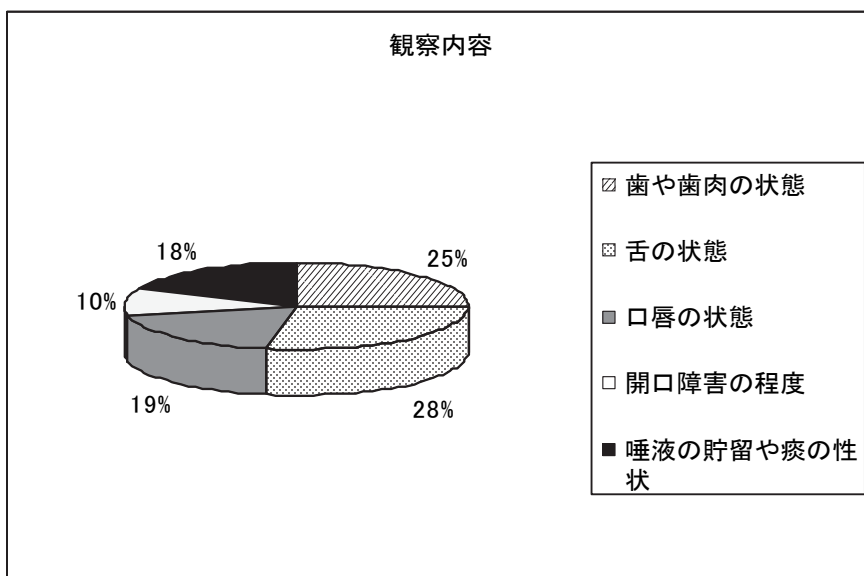
#### 4. 口腔ケアの観察知識・清掃技術について

##### 1) 口腔ケアにおける観察の実施程度



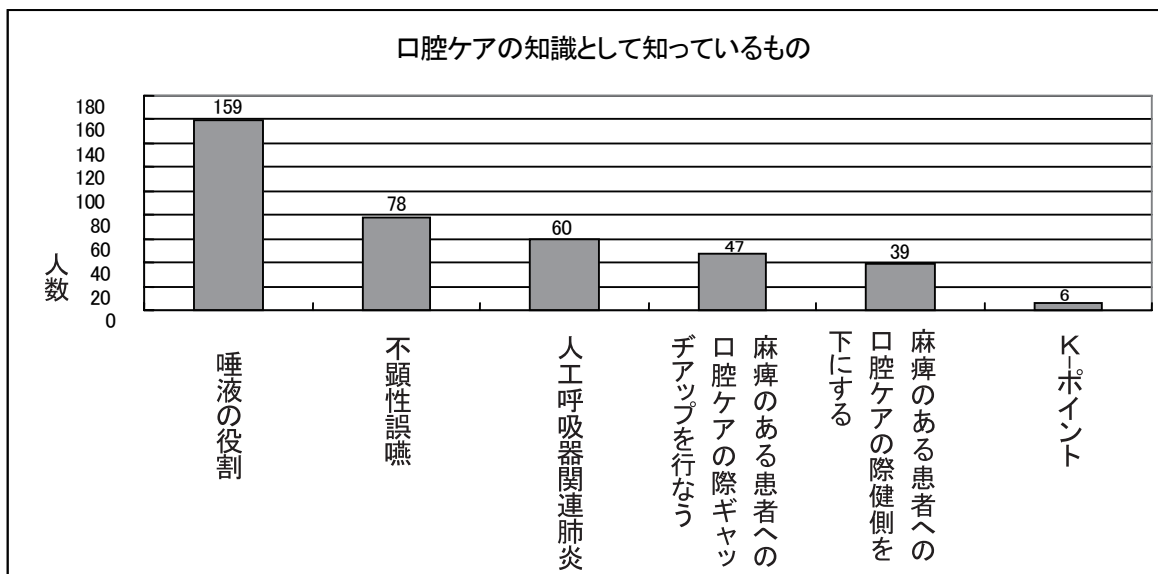
口腔ケアを行う際、観察を行っている人は多かったが、十分行えていると答えた看護師は全体の1割であった。

##### 2) 口腔ケアにおける観察内容



口腔ケアにおける観察で、最も実施していたのは、「舌の状態」でついで、「歯や歯肉の状態」であった。最も観察の割合が低いのは、「開口障害の程度」であった。

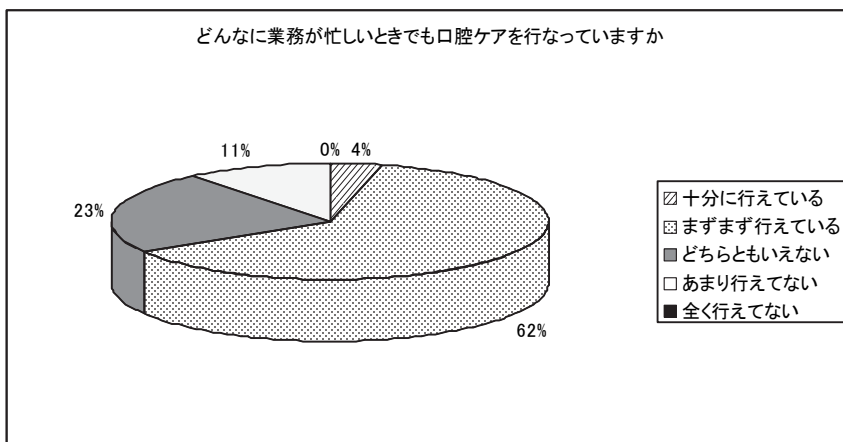
3) 口腔ケアの知識として知っているもの



知識として最も知っていたものは、唾液の役割（159人、87.8%）であり、ついで不顕性誤嚥（78人、43.1%）であった。知識として最もあがらなかったのは、K-ポイント（6人、3.3%）であった。

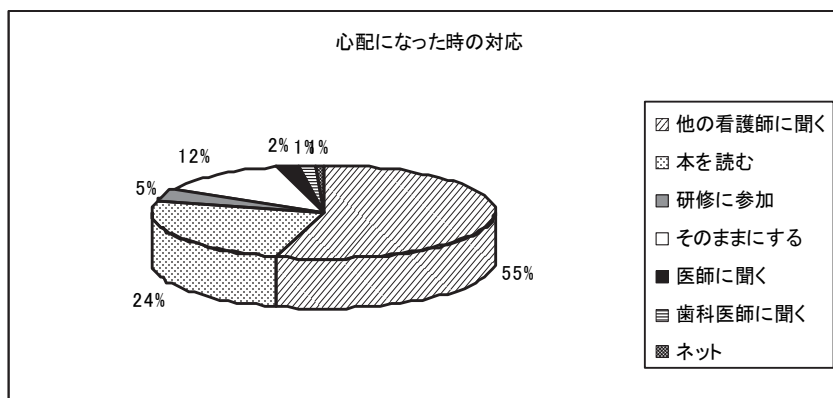
5. 口腔ケアの実行力について

1) 業務が忙しい時の口腔ケアの程度



どんなに業務が忙しくても66%の看護師が口腔ケアを行っていた。

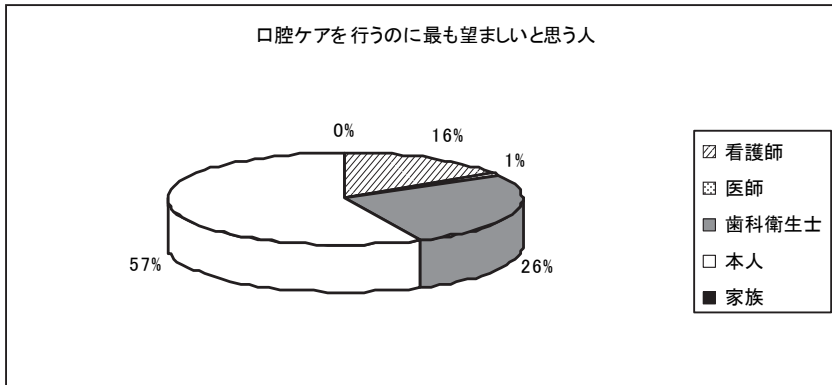
2) 口腔ケアを行なう際心配になったときの対応について



口腔ケアで心配になった時の対応として、「他の看護師に聞く」が最も多く、約半数を占めていた。「医師や歯科医師に聞く」は、全体の3%であった。

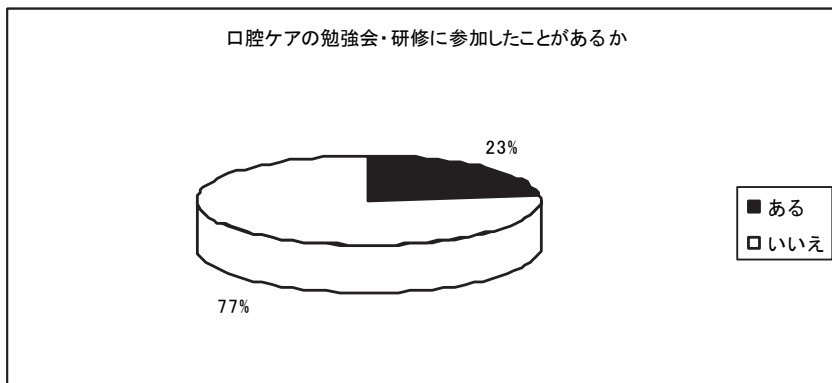
6. 他部門との関わりについて

1) 口腔ケアを行なうのに最も望ましいと思う人



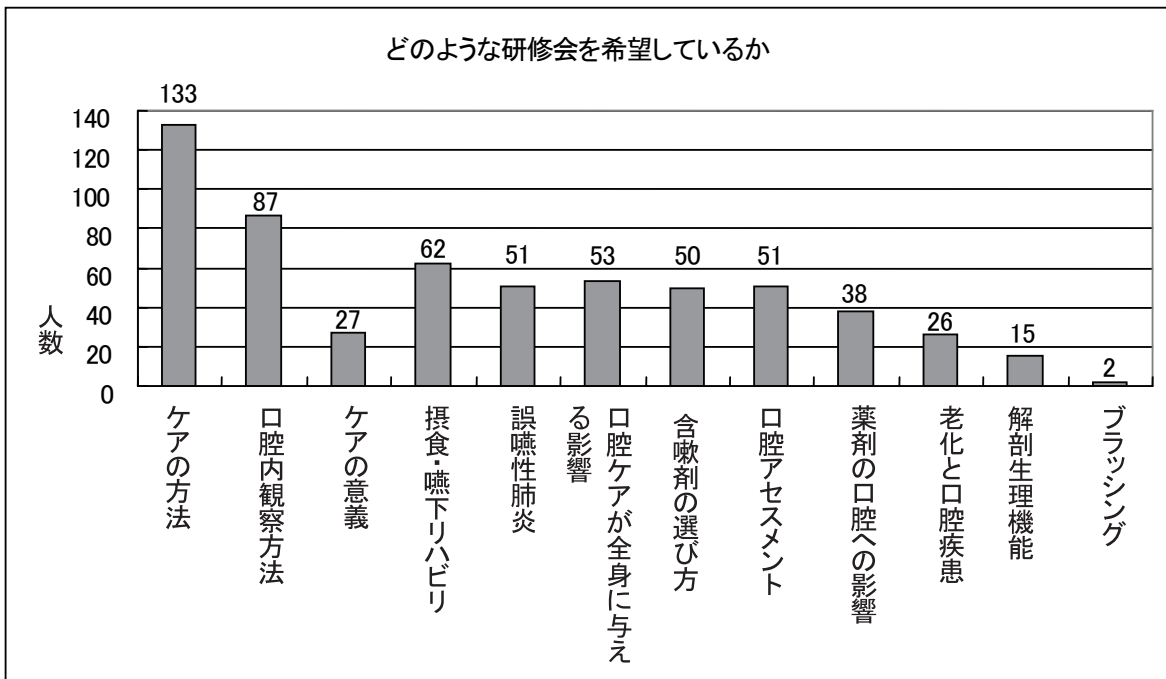
「看護師」が口腔ケアを行うのに最も望ましいと思った人は16%で、最も多かったのが「本人」、ついで「歯科衛生士」であった。

2) 口腔ケアの勉強会・研修に参加の有無



勉強会・研修に参加したことがある人は23%で、多くの方が勉強会・研修に参加しなかった。

3) 研修会に希望する内容



研修会の希望で最も多かったのが、ケアの方法（133人、73.5%）であった。ついで口腔内観察方法（87人、48.1%）、摂食・嚥下リハビリ（62名、34.3%）であった。

## Ⅶ. 考 察

当院の看護師が口腔ケアをほぼ全員が必要であると認識していることが明らかとなった。また 78%の人が、口腔ケアは感染予防として必要であると回答しており、どんなに業務が忙しいときでも口腔ケアを行っているという回答した人は 65%であった。このことから、看護師にとって口腔ケアは清潔ケアの 1 つであると認識していることが明らかとなった。

しかし、十分に口腔ケアを行えていると回答した人はなく、まずまず行えていると回答した人は 19%であった。また、口腔ケアの際に観察を十分に行えていると回答した人は 10%であった。由良らは「看護師の口腔ケアの認知度は概して高く、口腔ケアの口腔機能と全身管理へのかかわりはある程度理解されているようである。一方で、口腔ケアに関する知識と技術は必ずしも高くなく、知識および技術の修得と動機付けが問題とされている」<sup>3)</sup>と述べている。これまでの看護師を対象とした口腔ケアの意識調査と同様に、当院においても口腔ケアを行っているがそれが本当に正しいと実感して行えている人は少ない状況があると考えられる。

口腔ケアの研修会に参加した人は全体の 23%であった。また、当院口腔外科外来で使用されているアセスメントシートは病棟では活用されておらず、看護師の認知度も低い状況である。このことから、口腔ケアを統一した観察・技術ではなく、看護師が個々の判断で行っていることが示唆された。また、口腔ケアを行うのに望ましい人として、本人について歯科衛生士が望ましいと考える人が 26%いた。その理由として、専門的知識をもっており一番適したケアが行えるからと答えていた。しかし、現状として歯科衛生士のみで全病棟の口腔ケアを実践することは困難であり、実際に実践するのは病棟の看護師であると思われる。口腔ケアは QOL の向上や ADL にも大きく関わっていることが証明され、口腔ケアの必要性が医療現場においても認識されるようになってきている。しかし、口腔ケアが看護の清潔ケアにおける清拭や陰部洗浄などのように普及しているとは言えない。普及しない原因として角らは、「看護師の卒前・卒後教育あるいは介護職に対する講習会等において口腔ケアに関する適切な教育が十分なされていないことや口腔ケアの情報が乏しいことも原因です。」<sup>4)</sup>と述べている。今回のアンケートにおいて、研修会での希望内容も多く口腔ケアへの興味は高いため、身近に参加できる研修会や資料があれば知識・技術の向上に活用できるのではないかと考える。

桐山らは「勉強会の後で、看護師の口腔ケアに対する意識の変革が起こり、口腔内観察をする機会が増えることが分かった。またケア技術向上を目指す意識の高まりが見られた。」<sup>5)</sup>と述べている。他病院において、口腔ケアチームによる専門的な口腔ケアの指導に効果があることが分かっている。当院においても、口腔外科の一部の活動ではなく、創傷管理チームや NST などと同様に病院全体でのチームの立ち上げ、取り組むことで、看護師全体の知識及び技術の向上につなげることができるのではないかと考える。その結果として、ケア内容の統一が図れ、病院全体での質の高い口腔ケアの提供ができるのではないかと考える。

## Ⅷ. 結 論

- ①口腔ケアの目的や必要性は認識しているが、行動として伴っていないのではないかと考えた。
- ②看護師が口腔ケアを必要であると考えていることが明らかとなった。しかし、十分に行えているとは感じていないことも明らかとなった。
- ③研修会での希望内容も多く、口腔ケアへの興味は高いため、身近に参加できる研修会や資料があれば知識・技術の向上に活用できると考える。

## Ⅸ. おわりに

今回のアンケートにより当院における看護師の口腔ケアの現状を知ることができた。今後は、具体的なアプローチ方法を検討し、口腔ケアの意識の向上や知識・技術の統一化を図り、質の高い口腔ケアに向けて取り組んでいきたいと考える。

## 引用文献

- 1) 谷口敏代他：口腔ケアに関する看護の現状認識についての考察、岡山臨床看護研究会, 6 卷, 19 - 24, 1999.
- 2) 北嶋由香他：意識障害のある挿管中の患者の口腔ケア, 看護技術, 44(2), 113, 1998.
- 3) 由良晋也：口腔ケアについての看護師を対象とした意識調査, 北海道歯誌, 27, 28 - 31, 2006.
- 4) 角保徳, 植松広：5分のできる口腔ケア, 医歯薬出版, 35 - 36
- 5) 桐山健：口腔ケアに関するアンケート調査－口腔ケア勉強会の効果について－, 広島県立病院医誌, 38(1), 39 - 46, 2006.

## 参考文献

- 1) 長澤静代：口腔ケアの徹底に向けての一考察－口腔ケアに対する看護師の意識の変化－, 第33回日本看護学会論文集（成人看護Ⅰ）, 164-166, 2002.
- 2) 西本せい子：意識障害患者の口腔ケアに対する看護師の意識調査, 第33回日本看護学会論文集（看護総合）, 272 - 274, 2002.
- 3) 石井陽子：口腔ケアに関する看護職種の意識調査, 第38回日本看護学会論文集（成人看護Ⅱ）, 401 - 403, 2007.
- 4) 村松真澄：基礎から学ぶさまざまな患者への口腔ケア, ナーシング・トゥデイ, 18 - 29, 2009.